

お知らせ

◆決定!!

第22回・遠藤文学原点の旅

長崎に生誕百年遠藤周作展を観る

——夕陽と懇親会、一泊の旅

2024年5月19日(日)〜20日(月)

※希望者は延泊も可能

予定スケジュール

羽田空港(9時35分発) — 長崎空港(貸切バスで) — (昼食) — 黒崎教会

— 長崎市遠藤周作文学館 — 『沈黙の文学碑・外海地区の教会や資料館 — 夕食および懇親会 — 角力灘の夕陽を見る — 長崎市内 — ホテル泊(ホテルニュー長崎) — 翌日は自由行動のち県営バスで長崎空港へ。15時35分発で帰京(羽田着17時25分)。

※その他の空港から発着も可能です。

旅行代金 80,130円(一泊2日、羽田・伊丹集合コースの場合)

※ホテル代を含めた料金の詳細については、本報6ページをご参照ください。

最終申込・締切 3月10日までにメールかハガキで「周作クラブ」まで(メールアドレスおよび住所はこのページ下段を参照)。

なお、すでに仮申込をされた方々へは、旅行社から2月末までに正式な申込書等が送られることになっていきますが、万一、お届けがない場合は、周作クラブ・Eメールへお申し出ください。※新たにお申込みの方々は、3月末までに旅行社からの書類が届けられます。

◆遠藤文学の関連本(新刊) 『遠藤周作 女性を描く』

鼎書房 定価 6,000円+税 遠藤文学の核心にある愛と宗教観は女性に託されていた。〈母〉〈聖女〉〈空虚感〉などをキーワードに、70作品超の分析と読解を通して、遠藤のメッセージを解明する。(オビ文から)

◆特集・遠藤周作と九州 「文学批評・叙説IV-1」 池田静香ほか著

花書院 定価 1,800円(税込)

訃報

周作クラブ幹事で、本報編集長でもあった作家の高橋千劔破さんが1月6日、腎がんのため自宅で亡くなりました。80歳。葬儀はすでに近親者のみで行われました。喪主は妻、静江さん。

高橋さんは東京都出身、立教大学卒。雑誌「歴史読本」編集長、日本ペンクラブ副会長、日本文芸家協会理事などを歴任。著書に『名山の日本史』『花鳥風月の日本史』『江戸の旅人』など。

周作クラブ創立期からの幹事をつとめた同氏を偲び、本報では次号に追悼記事を掲載します。(編集部)

◆「会報」の原稿募集 会員の皆さまの原稿を募集しています。900字(半ページ分)あるいは1800字(1ページ分)。遠藤周作の人と作品について、あるいは遠藤文学との関わりなど、何でも結構です。なお、原稿は必ず下記「周作クラブ」宛てに郵送するか、下記Eメール(原稿添付)でお送りください。掲載の際にはご連絡差しあげます。

◆「周作クラブ」会員募集 「周作クラブ」では会員を募集しています。遠藤文学ファンはもちろん、これから読んでみようという方々も大歓迎です。年会費は3,000円。入会金はありません。年4回発行の「会報」が送られるほか、会が主催する「新年会」「周作忌」「文学セミナー」や遠藤作品の足跡を訪ねる「遠藤文学・原点の旅」、そして「オンライン懇親会」にも参加できます。下記「周作クラブ」まで、ハガキかEメールでお申込みください。折り返し、資料と会費振込用紙をお送りします。

編集後記

▼2024年は能登の大地震で波乱の幕あけ、追い打ちをかけるように高橋千劔破氏の訃報が飛び込んだ。私は高橋氏とは周作クラブができるずっと以前から、劇団樹座で知己を得ていた。あのソフトで優しい語り口、花鳥風月に詳しく何を聞いても答えてくださる、頼りになる方だった。

▼三島由紀夫氏の事件の時、私は確か高校二年生、新聞部の部長をやっていて、大きく取り扱ったのを覚えている。ただ、大学で遠藤先生が講義をしていらっしやうとは知らず、もし知っていたら、インタビューを試みていただろう。17歳の高校生のインタビューに果たして先生は答えてくださったろうか。

▼長崎の遠藤周作文学館からは読書感想文の授賞式の模様が届いた。今時なのは、参加者の一人はリモートでの参加だったこと。時代のスピードに振り落とされないようにしないと。

▼「遠藤文学・原点の旅」が決定した。長崎で「生誕100年記念展」をじっくりと観て、その後、外海の美しい夕陽を皆さまとともに眺めましょう。ご参加を心待ちにしています。(亀)

「周作クラブ」第94号

2024年2月発行

■編集人 亀岡 園子

■編集部 一田佳希、大原雄、近藤恭弘、高木香織、清水優子

■発行所 東京都世田谷区上馬4-29-17 加藤宗哉事務所内「周作クラブ」

Eメール Shusaku_club@yahoo.co.jp